

三博協の進展に想う

三博協機関紙編集委員会

東京多摩地区に市町村立の博物館が設置され始めたのは、昭和40年になってからのことで、42年までの間に東村山・八王子・府中が建設された。その後6～7年を経た50年前後になると、町田・青梅・調布・瑞穂・奥多摩・福生に相継いで建設されるに至った。

「地方文化創造の時代」といわれる今日、この傾向はさらに進展しそうな勢いで、今、多摩は博物館の新たな建設期を迎えているといえる。

地域が変わるごとに、微妙に異なる人びとの気質と自然風土があり、これらによって培われ創り出された文化がある。そうしたものが市民生活の支えとなっていることを知る時、多摩の各地に1館でも多くの、いやすべての町に博物館が設置され、地域文化発展の拠点としてその文化生成の姿を解き明かし、地域の将来展望のために還元普及していくことの大切さを感じる。そこに、一地域に博物館が存在することの大きな意義があるものと思われる。

多摩地区におけるこうした博物館建設ブームの中で昭和53年7月15日に「東京都三多摩公立博物館協議会」(通称:三博協)が誕生した。この会は、設置主体を同一条件とする市町村立の博物館が、連絡協調を図っていくことにより各館の活動を相乗的に高めていくことを目的として発足したものである。会の活動は今その緒に着いたところで、まだ安定軌道に乗っているとは言えない。しかし、会の発展と多摩地区における博物館活動の振興・普及は、今後建設される館を含めた総意を集中して漸次高められ、また高めていかなければならないものと思ふ。

ところで、三博協の発足に至る経過については、本会報創刊号に明らかであるが、これと相前後して進行していたもう1つの動向があった。

それは、学芸員による自主研究会の開催である。勿論、15年前は設置館も職員数も僅かという頃で、こうしたことは考えても出来得ないことであったが、それも昭和48～49年になって、町田・青梅・調布に博物館が設置されるに及んで若手の学芸員が増えることとなり、期せずして盛り上ったものである。

研究会発足のきっかけとなったのは、昭和49年2～3月に開催された東京都社会教育施設職員研修会であ

った。間もなく関係者の中で事前の打合せが行われ、会の名称を「多摩公立博物館職員連絡会」と決め、5月24日にその第1回研究会がスタートされた。

発足当初の研究課題は、「地域社会と博物館活動」であるが、これはメンバー各人が地域博物館の職員として基礎的におさえておかねばならない視点と考えたからであり、以後月例会を通して研究が進められた。

こうして行われることとなった研究会も、メンバーの所属が異なることから種々の制約が表面化し、会の運営に苦慮することがあったが、ちょうどこうした時期に、既に設けられていた館長連絡会が発展的に全職員が参加できる現三博協となり、その事業の中に、職員相互の研究発表の開催が取りあげられるという理解をいただいたことで、その解決をみたのであった。

以上の経過を含めて考えると、今日の三博協は、職員全体の会としてあることがわかるが、この協議会は定期的にかかれるのを始め、機関紙の発行、親睦会の開催など会としての基本的な活動を実施しているだけでなく、こうした積み重ねを通して、多摩地区の博物館活動を全体的に高揚し、同時にそれを行政を含めて地域住民に普及していくことを目指していることを考えると、すべての職員がこの会の活動に参加して、会の発展に寄与することが肝要なことと思われる。

1館が実施する活動には、資料・スタッフ・予算などの面で限界があり、その目的を達するに至らない場合がある。このために相互協力を必要とし、そこに三博協の設置意義があるのではないかと判断する。

広く多摩の地域には、大古の昔から今日に連綿と連がる共通した文化風土というもののあることを思うと、相互に協力しあって実施できる活動のあることが、少しく思い浮かぶ。例示すれば、統一テーマのもとに各館が一斉に展示会を開くとか、会場を1つにプロジェクト方式で展示会を作りあげるなどであり、さらにはこうしたことのために共同研究を実施するなどは、是非とも計画したいものの1つである——多摩地区の博物館が個を確立しながら、多摩という文化圏の中で、「群」として結びつき成り立っていく——そうしたための三博協であればと想い描くのである。

【博物館活動のお知らせ】

●展示会

館名	展示会名	期間	内容
青梅市郷土博物館	杉山の板碑展	54.5～	市内遺存の板碑、拓本類約80点の展示。
	郷土の野鍛治展	54.12～	野鍛治の道具を中心として展示。
奥多摩郷土資料館	小河内の郷土芸能	53.4～	原の獅子舞、川野の車人形、小留浦の花神楽など展示。
	山村の生活用具	53.4～	国指定有形民俗文化財、小河内の山村生活用具を展示。
調布市郷土博物館	郷土学習展Ⅵ「おばあちゃんの時代」	55.2.20～5.11	おばあちゃんの時代に使われた台所道具の歴史を中心にした展示で、郷土調布のくらしの変遷をみる。
	原始・古代のくらし—生活技術の復原—	55.6.10～8.31	調布市内の出土品を中心に、原始・古代の人々のくらし(衣・食・住)を模型等も使って再現してみる。
	調布(たづくり)展—原始から近代まで—	55.9.11～11.20	先土器時代から市制施行までの調布市の歴史をふりかえり、今日の生活を考える。
	開館第30回展	55.12.2～56.2.15	市民が独自に収集し愛蔵している書画工芸品や記念品等を展示し、市民と博物館との相互理解を深める。
	我家のたからもの展		
	郷土学習展Ⅴ	56.2.24～5.24	主として小中学生を対象とした展示で、今回は調布の自然環境と人々のくらしとのかかわりについて展示。
八王子市郷土資料館	写真でつづる八王子の歴史	55.6.24～8.3	幕末から昭和20年代までの写真により、市民の身近な歴史のうつり変わりを知る。
	八王子の墨書展	55.11.3～11.30	9世紀から近世にいたる墨書をたどり、墨書の意味と歴史を探る。
	人物コーナー「原善助—高倉大根生みの親—」	56.2.12～3.29	八王子市高倉地区の特産である漬物用大根の高倉大根を、大正から昭和20年代にかけて改良し、生み出した原善助について紹介する。
東村山市立郷土館	農業のくらし展	55.6.3～	土と汗の生業や農民生活の民具・農具を展示し、先人の生活を偲ぶ。
府中市立郷土館	府中の野鳥展	55.5.10～5.16	愛鳥週間記念移動展(於市役所市民談話室)
	第10回 むさし府中の自然展	55.7.23～9.7	自然調査の成果に基づいて、府中市内の自然の様相を総括的に展示。
	市民芸術文化祭参加各種展示会	55.11.1～11.16	著名俳人染筆展。刀剣展。市民所蔵品の出品。
	ひとと道具展	56.2.22～5.4	人の動きの中で道具を把え、ひとと道具のつながりを見直してみる。
福生市郷土資料室	福生市の成り立ちと人びとのあゆみ	55.4.2～56.3.31	地質時代から現代に至るまでの福生市の歴史・民俗・自然を福生市及び周辺地域の資料を展示することによって、多摩川を中心とした地域の中に福生市を位置づける。
町田市立博物館	抒情画展—明治・大正・昭和のロマン—	55.4.22～5.18	竹久夢二・高島華宵・加藤まさを・須藤しげる・落谷虹児・中原淳一の雑誌、単行本、挿絵、挿絵の原画約200点を展示。
	仏教美術展—松田コレクション—	55.5.27～6.29	故松田福一郎氏と松田光氏の親子2代にわたる仏像・仏画・瓦などのコレクションを展示。
	町田の縄文文化展	55.7.8～8.10	近年調査されたばかりの新資料を中心に、生活用具・装身具・宗教遺物など約300点を展示。
	町田の生物展	55.8.19～9.28	カエルなどの動物、アシなどの植物、カワセミなどの野鳥のハク製や写真パネルによる展示。あわせて庚申塔・地神塔の写真パネルによる展示。
	併陳—町田の石仏		

	巫欧堂田善展	55.10.7~11.3	田善は江戸時代の洋風画家。彼の油絵・日本画・銅版画・下絵類などの作品を展示。
	世界の古地図展	55.11.11~12.14	故渡辺紳一郎コレクションの16~19世紀にかけての、日本が描かれている世界図やアジア図73点を展示。
	養蚕の用具と信仰 併陳 町田の石仏	55.12.23~56.2.22	町田の産業であった養蚕の用具のいろいろを展示し、あわせて夏に引き続き、町田市域の庚申塔・道祖神・馬頭観音などを写真パネルで紹介。
	神札と寺札展	56.3.3~4.12	御札は、神社・仏閣で出す護符のうち、神棚や仏壇に納めたり、門・戸口・棚などに貼る比較的大きなものをいいます。御札の神仰は、呪物崇拝の一種で、版木を含む御札を通して、日本人の信仰生活をみる。
瑞穂町郷土資料館	我が町40年のあゆみ	55.11.1~11.3	町制施行40年にちなみ、当時の写真・記録・資料などを展示。
東京農工大学工学部 附属繊維博物館	特別展：蚕織錦絵	55.5.24~6.1	養蚕・製糸・機織に関する錦絵400点を展示。
	“ : 小 紋	55.11.15~11.24	小紋型紙・彫具・反物・着物などを展示。
	和紙を素材とした創 紙美術	55.4.3~4.26	紙彩画32展。
	東京農工大学百年の 歩み	55.5.23~6.6	本学歴史資料、写真など約50点を展示。
	蚕織錦絵	55.6.9~7.11	当館所蔵品29点を展示。
	和紙による絵画展	55.7.12~9.15	張り絵、点描画など25点を展示。
	創作折り紙	55.9.19~10.14	オリジナル折り紙約50点を展示。
	手づくり和紙の花	55.10.15~11.10	和紙でつくった秋の花30点を展示。
	マッチ商標	55.12.15~56.1.25	昭和初期のマッチ箱の商標約200点を展示。
	水引細工	56.2.1~3.10	水引による装飾品約20点を展示。
	まゆ玉祭(年間行事)	56.1.13~1.17	養蚕信仰として復元展示。

● 教育普及活動

館 名	種 別	題 名	期 日	講 師	備 考
奥多摩郷土資料館	講 座	古文書講座	55.6~55.11	町文化財専門委員 長ほか	於町福祉会館
	“ “	“ “	56.1~56.3	町誌編さん委員	於町役場 5回
調布市郷土博物館	講 演 会	多摩川とくらし	55.4.26	角田益信	於博物館
	体 験 学 習 会	土器作り	55.7.29~7.30	博物館学芸員	於多摩川児童館
	映 写 会	道路のうつりかわり	55.10.12~10.26		於博物館 4日間
	講 演 会	南多摩古窯と国分寺造営	55.10.12	福田健司	於 “
	“ “	うつし絵と庶民文化	55.10.18	小林源次郎	於 “
	“ “	深大寺城と中世の多摩地方	55.10.25	青木一美	於 “
	映 写 会	円 空	55.12.6~12.7		於 “
	体 験 学 習 会	藁草履・注連縄を作る会	55.12.14	川手武雄・斉藤源造	於 “
八王子市郷土資料館	講 座	郷土の歴史を探る会	55.5.31~7.6	宇都宮大学教授久 保哲三・ほか4名	於：郷土資料館・稲 荷山古墳・吉見百穴
	講 演 会	近代武蔵野の庶民生活	55.7.13	国立民族学博物館 教授中村俊亀智	特別展記念講演会
	相 談 会	親と子の歴史相談	55.8.21~8.24	運営委員ほか	於郷土資料館
	公 演	八王子車人形の公演	55.10.19	西川古柳座	於八王子市民会館
東村山市立郷土館	講 座	こども歴史教室	55.6.14~10.4	市立郷土館運営委 員東原政二	市立小学校の6年生 を対象

府中市立郷土館	講演会	自然と人生について	55.7.27	独協大学教授山鹿誠治	於市民会館 夏季特別展記念講演会	
	" "	武蔵野の水車	56.3.29	関東地方史研究会 伊藤好一	春季特別展記念講演会(於勤労福祉会館)	
	観察会	沖積低地の植物	55.4.27	自然調査団調査員		
	" "	多摩霊園の野鳥	55.5.11	" "	於多摩霊園	
	" "	国分寺崖線の湧水と道	55.6.8	" "	於殿ヶ谷戸公園、他	
	" "	多摩川の植物	55.6.15	" "	於多摩川原	
	" "	秋の虫の鳴く音を聞く会	55.9.6	" "	於 " "	
	" "	冬の植物と昆虫	56.2	外部講師・会員発表	於浅間山	
	" "	多摩川の冬鳥	56.2	" "	於多摩川	
	" "	親子自然教室	55.8.17・24・30	自然調査団調査員	植物・昆虫・地理観察会	
福生市郷土資料室	史談会例会	近世多摩の市について他	毎月1回	外部講師・会員発表		
	講座	初心者古文書講座	55.5.28~56.2.4	立正大学教授北原進	全15回 於資料室	
	" "	婦人セミナー「私の民俗誌の作成」	55.5.26~56.3	都立富士高教諭河上一雄	全15回 於資料室	
	体験学習会	子供友の会 ― 縄文時代を考える ―	55.6.4~55.8.28	資料室職員	全9回 土器製作他	
	" "	子供友の会 ― 昔の食生活と行事 ―	55.10.23~55.12	常民文化研究会西海賢二	全6回 於資料室	
	" "	昆虫標本制作学習会	55.9.21	市内小学校教諭栗原仁	講義・実習 於郷土資料室	
	観察会	子供友の会天体観測会	55.7.5~56.3	市内小学校教諭安川和幸	全4回 於資料室裏庭	
	" "	天体観望	55.11.29 ~56.2.28	都立多摩工高教諭長沢作夫	全6回、成人対象	
	町田市立博物館	講演会	抒情画の流れについて	55.5.11	尾崎秀樹	於博物館
		" "	仏教美術の見方について	55.6.15	浜田隆	於 "
" "		縄文人の一年	55.7.27	永峯光一	於 "	
" "		水辺の生物―親子のために―	55.8.24	斉藤博	於 "	
" "		亜欧堂田善と洋風画	55.10.19	陰里鉄郎	於 "	
" "		江戸時代の銅版画	55.10.26	菅野陽	於 "	
映写会		縄文土器・大昔の生活	55.7.13		於 "	
講座		市民考古学入門講座(Ⅳ)	55.7.23~8.8	学芸員川松康人	於博物館・藤の台遺跡	
" "		第5回民俗学講座	55.9.19~11.28	学芸員畠山豊	於 "	
移動博物館		スライドとお話 博物館の活動	55.8.23		於町田市小山センター	
瑞穂町郷土資料館 東京農工大学工学部 附属繊維博物館	講演会	民俗学講演会	56.2~3	未定	於博物館	
	" "	神礼と寺礼展に關したもの	56.3~4	"	於 "	
	映画会	カヌーの旅・海の神秘	55.12.14		於 "	
	" "	養蚕の用具と神仰に關するもの	56.1~2	未定	於 "	
	学習会	郷土資料館団体見学	随時	資料館係	於郷土資料館	
	講演会	星と宇宙(たなばた祭)	55.7.7	科学博物館 村山定男	於講堂	
	講習会	結びについて	55.7.9	小林平男	於博物館	

講習会	和紙の花	55.7.15	海部桃代	於博物館
" "	わらべはり絵	55.8.26	小路和	於 "
" "	珍しい折り絵	55.9.26	金子六郎	於 "
" "	手づくり和紙の花	55.10.17	海部桃代	於 "
" "	和紙で描く紙彩画	55.10.21	牧野成昭	於 "
" "	水引細工	55.11.	福山有彩	於 "
講演会	組ひものルーツをたづねて	55.12.13	原野光子	於 "
" "	まゆ玉祭と小正月	56.1.17	鈴木三郎他	於 "
勉強会	織物の作り方	56.2.4	並木覚	於 "
" "	ひも結びの基礎	56.2.	小林平男	於 "
講習会	ボビン・レース	56.3.	福山有彩	於 "

● 出版物

館名	書名	定価	部数	内容
奥多摩郷土資料館	古文書目録		300	町誌編さん事業の中間報告書として刊行
	奥多摩の社寺		300	" "
調布市郷土博物館	博物館だより No. 6~8	無料	各 1,000	展示内容、博物館事業紹介等
	調布の麦づくりとその利用	"	1,000	麦のつくり方やその利用方法等の解説
	調布の米づくり	"	1,000	米づくりの順序や農具等についての解説
	原始・古代のくらし	"	1,000	「原始・古代のくらし展」解説パンフレット
	原始・古代のくらし展目録	"	1,000	「原始・古代のくらし展」出品資料目録
	調布(たづくり)展	"	3,000	「調布展」解説パンフレット
	郷土博物館資料目録(6)	"	未定	昭和55年1月~12月までの資料目録
	我家のたからもの展	"	1,000	「我家のたからもの展」図録
八王子市郷土資料館	写真でつづる八王子の歴史	1,000	1,000	「写真でつづる八王子の歴史展」図録
	写真でつづる八王子の歴史	無料	3,000	「写真でつづる八王子の歴史展」リーフレット
	八王子の墨書展	"	1,000	「八王子の墨書展」リーフレット
	資料館だより No. 10~12	"	各 1,000	研究小論、資料紹介、館事業案内等
東村山市立郷土館	郷土館だより	無料	1,000	資料紹介等
	ふるさとの民具	未定	1,000	郷土館収蔵資料
府中市立郷土館	郷土館だより No. 47~50	無料	各 1,500	研究小論、資料紹介、館事業紹介等
	郷土館紀要第7号	1,300	600	近世六所宮の社僧他。在庫第3~6号
	郷土資料集第4集	2,000	800	猿渡盛章紀行文集。在庫第1~3集
	武蔵府中郷土かるた	500	7,500	郷土学習用資料として児童に配布。一部頒布
	第10次自然調査報告書	未定	500	年次調査報告書。在庫第5~9次
福生市郷土資料室	郷土資料室利用の手びき	無料	10,000	展示の案内
	福生市の民俗 生業・諸職	2,000	500	文化財総合調査報告書第12集
	長沢遺跡発掘調査報告書	未定	500	" " 第13集
町田市立博物館	抒情画展	450	600	「抒情画展」展示図録
	仏教美術展	500	700	「仏教美術展」展示図録
	垂欧堂田善展	550	700	「垂欧堂田善展」展示図録
	世界の古地図展	600	700	「世界の古地図展」展示図録
	神札と寺札展	未定	700	「神札と寺札展」展示図録
	仏教美術展	無料	2,000	「仏教美術展」リーフレット
	町田の縄文文化展	"	3,000	「町田の縄文文化展」リーフレット
	水辺の生物展	"	3,000	「水辺の生物展」リーフレット
	養蚕の用具と信仰	"	2,500	「養蚕の用具と信仰展」リーフレット
	博物館だより 14	"	1,500	館事業報告、資料紹介、友の会活動報告等

瑞穂町郷土資料館	瑞穂の地名	500	1,000	1668年頃からの検地帳に記載の地名の調査
東京農工大学工学部附属繊維博物館	蚕織錦絵展目録	—	800	蚕織関係錦絵の目録
	繊維博物館ニュース5~6号	—	各 2,500	定期刊行・年2回。繊維啓蒙記事、お知らせ等

● 調査研究

館名	題名	期間	内容	発表誌書名
調布市郷土博物館	調布の古民家調査 (基礎調査)	55.8.7~8.9	市内に現存する藁葺屋根の農家、商家等30棟について調査	館報8号に調査概要を掲載する
八王子市郷土資料館	写真資料の調査及び収集	55.3~6	幕末から昭和20年代までの写真の調査、収集	特別展図録「写真でつづる八王子の歴史」
	民具実測図の作成	55.10~11	収蔵中の織物関連用具の実測図の作成	
	無形民俗資料のV・T・Rの収録	55.11	わらじ・みのづくり	
東村山市立郷土館	石造遺物(近世)	55.1~2年間	全点カード作成	
府中市立郷土館	市内の石造遺物の調査			
府中市立郷土館	府中市内の屋敷神調査	年度内	市民各宅に現存する屋敷神の悉皆調査	57年度紀要
福生市郷土資料室	古文書調査	49.~	市文化財総合調査	文書の整理と撮影
	民俗調査(第3次)	55.4.~59.3.	衣食住、社会生活、信仰	市文化財総合調査報告書
	石造遺物調査	55.4.~57.3.	石仏及び石造遺物の分布	市文化財総合調査報告書
	植物調査	49.4.~	草本類調査	市文化財総合調査報告書
	水生生物調査(第1次)	54.4.~56.3.	多摩川の水生生物	市文化財総合調査報告書
瑞穂町郷土資料館	方言について	55, 56年度	町民が使用していた方言について調査	瑞穂の方言
東京農工大学工学部附属繊維博物館	中西金作氏の発明		大正期に「電気紋織機」と称して写真から直接織物にする機械を考案、その原理と内容の紹介	産業考古学誌 18号(予定)

● 文化財の動向

青梅市	玉泉寺大般若経(市指定有形文化財)修理。天寧寺山門(都指定史跡)等修理。
福生市	旧熊川村の地頭田沢氏の墓を、市史跡として文化財に指定するため、現在検討中である。
瑞穂町	文化財審議委員会を中心に、ここ数年計画的に文化財の収集に努めている。

● 友の会及び外郭団体の活動

八王子市郷土資料館	古文書を探る会	毎月例会(解説研究)	於 郷土資料館
		伊勢参宮日記の解説中	
		毎月 会報「きららむし」を発行	
	桑都民俗の会	毎月例会(講演会および民俗散歩を実施)	於 郷土資料館

	毎月 月報「桑都民俗」の会を発行 12月下旬 機関誌「桑都民俗」を発行
福生市郷土資料室	活動援助サークルである。福生古文書研究会は毎年、活動成果を資料集として刊行しているが、55年11月に、五日市町伊奈の石川家に伝わる嘉永六年の歳中日記帳を翻刻し刊行した。
町田市立博物館	町田市立博物館は、開館以来見学会、歴史探訪、講演会と多方面にわたって活動してまいりました。そして今年度は4月に前期の活動計画をたて、7月に日本民芸館、日本近代文学館世田谷郷土資料館等の博物館施設の見学会をおこないました。8月には当館学芸員の指導のもとに藤の台遺跡の見学講演会を実施し、現在は中近東文化センター、武蔵野郷土館の見学会を企画しております。56年1月4日に例会として、八王子市鎌水の小泉氏宅を訪問し、絹の道と小泉氏宅のお正月についてお話をうかがうことを計画しています。
東京農工大学工学部附属繊維博物館	当館の友の会は、本年1月に発足、現在会員350名。 友の会の活動としては①集会、②サークル、③ボランティアがあり、本年からサークル活動の強化を努める。ボランティア活動は随時に集会活動の中で進められる。

● 人事消息

青梅市郷土博物館	人事異動55年10月15日付 管理係長滝沢博氏転任、同大倉十弥也氏後任として着任。
奥多摩郷土資料館	館長土屋高則氏55年9月30日付で退職。10月1日付で大場久氏後任として着任。
八王子市郷土資料館	佐藤広氏55年11月29日結婚。
府中市立郷土館	後藤広史氏55年8月1日付で新規採用(民俗担当・学芸員) 人事異動55年10月1日付 石黒大作氏転任 石川博幸氏55年10月1日付で新規採用(新設館建設準備担当・学芸員—旧船の科学館学芸員) 松田隆夫氏55年12月4日長男誕生(隆太郎)。
福生市郷土資料室	人事異動55年10月1日付 社会教育課長小野光朗氏転任、岡部清人氏後任として着任。 細谷由利江氏55年10月1日付で社会教育係長に昇格。
町田市立博物館	人事異動55年5月1日付 鈴木幸子氏着任 河野実氏55年8月21日長女出産(美奈子)。 川松康人氏56年1月27日長女出産(よしみ)。
東京農工大学工学部附属繊維博物館	鈴木五郎氏55年5月1日付で博物館係長に着任。

新しい博物館をめざして

『府中市郷土の森博物館建設着工へ』

府中市立郷土館

横尾友一

武蔵野の景観は、雑木林と丘陵に特徴づけられる。一帯に広がる雑木林の中を幾筋もの道が走り、この往来をとおして人が文化が往き来し、村や町をつくり、また歴史を創ってきた。——こうした古きよき時代の武蔵野は、今日急速にその姿を失いつつあり、市町村史や博物館の収集資料にその記録を留めている。

武蔵野の自然と文化を運んだ道、これと融和して営まれた人びとの生活の再現を目ざして——今、府中市では、このようなことを目標とした新たな地域博物館の建設を進めています。

既設の市立郷土館は、市の文化施策の一環として昭和42年に開設されましたが、資料が増大し活動が活発になるにつれ、極度の狭あいに見まわられています。こうした中で昭和51年5月に策定された「府中市総合計画」で、郷土の森と古民家園を築造するという計画と博物館を新設するという構想が打ち出されました。

市では昭和52年に市民会議に基本構想の検討を諮問しましたが、その結果、前記の3計画は一体的に建設

し、なおかつ博物館施設として位置づけるべきものであることの答申を受けました。以後、「府中市郷土の森博物館(仮称)」として建設準備を進めています。計画準備は、昭和54年に博物館界の学識経験者による調査研究に移行し、これに市及び市議会の検討が加えられ、市制25周年の記念事業としていよいよ55年度より着工されることとなりました。

計画の概要は、用地(約15ha)の全体を府中の特徴的な地形に造成し、実際の自然地理に見合った所に農家・町屋・街道・田畑等を生活環境そのままに復元して、府中における人びとの生活文化の構造を周遊しながら理解してもらおうとするものです。そして、こうした施設を見学する上でのビジターセンターとして、また森全体の管理本部として博物館本館を建設しますが、本館も狭義の総合博物館としての活動を行ないません。こういうことから郷土の森は、これらの機能が相乗して活動する新しい形の地域総合博物館を目ざすものといえるでしょう。

地方自治と博物館について

八王子市郷土資料館

事務長 関谷 紋次郎

戦後昭和22年に地方自治法が制定されてから33年が経過し、現在新しい自治法に基づいて地方自治が行なわれている。

そこで、この33年の経過を顧りみると、その第一段階は、終戦直後から30年代初期までの間であり、この時代は、いわば制度・組織の整備が図られた。すなわち、地方自治法を始め地方財政法、地方税法、地方公務員法あるいは、警察・消防・労働関係法等も逐次整備され、また、市町村合併促進法も制定され、各地方では大合併が行なわれた。

第二段階は、昭和30年代中期から40年代中期の頃までで、いわばオイルショック前までで、経済の著しい発展に伴って地方自治体の財政が急激な伸長発展を見せた時代です。すなわち、この時代は新産業都市促進法を始めとし、一連の地域開発の諸法が続々と制定施行され、また、地方自治体においても工場誘致等の条例を設けて自己の地域内に種々の産業施設を誘致し住民の所得の増大をはかった。そして公共事業は積極的に進展した。

次に来た第三段階は、昭和40年代の後期、すなわちオイルショックの頃から現代までで、この時代は高度成長によりもたらされた種々の社会的ひずみの是正する時代でもあり、同時に経済だけが発展すればよいというだけでなく、地域住民の適正な生活と精神的な文化が求められる時代になってきた。そこで過密・過疎・公害・環境等の諸問題、人命の安全確保・自然保護

などの問題が強く求められ、同時に社会福祉並びに教育文化の充実向上が要請される時代となって来た。すなわち調和のとれた地域社会の形成と発展が図られた時代となってきた。したがって地方自治体の行なう行政の役割は、複雑多岐にわたってきたといえよう。

以上のような段階を経て現在に至ったわけですが、博物館法も第一段階の頃、すなわち昭和26年につくられたが、各自治体ではこれに取組む財源措置が思うようにならず、第二段階である昭和30年代の中期に持ち越された。この頃になると各自治体の財政事情が急激な伸展を見せ始め、博物館の建設に取り組み始め昭和40年代の初期頃までには、数多くの博物館が建設され、地方文化の発展に目が向けられてきた。

しかし、その喜びもつかの間、やがて昭和40年代の後期を向えオイルショックの影響により経済的な最悪期に入った。高度成長の中で博物館が建設され文化的な行政が行なわれ始めその実績が上昇し、地域住民からもその実績が高く評価された現在、博物館の運営はのびやかなでいる財政事情の中で、限ぎられた予算でのやりくり懸命な努力をされていることと思う。

これからの博物館活動の中でも厳しい財源の中での活動をよぎなくされ、その活動に支障をきたすことはあると思うが、そこは賢明なる諸兄の学芸的知識、アイデア等を生かされ、更には郷土を愛することに情熱をかけ、よりよい博物館活動に邁進されますよう希望いたします。

レタリング文字を書きたい方へ

町田市立博物館

和田 弘美

美術を勉強する中で、有名な作者が描いた絵を模写するというのがあります。そのうちで、最もポピラーなものに、レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナリザ」があります。つい最近、町田にオープンした「まちだ東急」の買物袋にもでてくるあの「モナリザ」です。あの、ちょっと憂いを含んだ微笑が今でもうけるのか、パロディーにも必ずといっていい程登場してくれます。写真や印刷の技術が進んだ現在では、いとも簡単に複製が作れますが、自分で絵画を学ぼうと思っている人人は、そういったものに頼らず、そういった名作の技術を会得するため、頑に模写をするのです。

こういったことは、美術の絵画の分野だけにあてはまることではなく、どんなことについても言えると思います。何も喋れない赤ちゃんが言葉を覚えたりするのも、お母さんが、「ほら、わんわんよ」という言葉をまねして、「わんわん」を覚えていくといった具合にです。この例は、本題から少しずれてしまった様な感じがしないでもないですが、次のように置き換えて考えて頂くと、理解して頂けるかと思えます。

レタリング文字を書くプロの方々には、そういったことを勉強してこられた、謂わばお母さんですから、これから書こうという素人は何もわからない赤ちゃんのようなものです。そういった場合、どうしたら、読みやすい文字が書けるかということで、まず、プロが書いた文字のスタイルをまねすることからはじめます。よく観察して、とにかくなるべく、そっくりな様に書くのです。デザイン文字に似たプロのくせもまねしてしまうのです。それと同時に枠を作って、枠の中でバランスよく書いていくといったこともやります。そうやっていくうちに、だんだん同じプロのくせも、いいくせと悪いくせの区別がついてきます。悪い方のはどんどん捨てていって、いいのだけを、どんどん取り入れて行きます。そうして、まねではなく、今度は自分の文字が書けるようになるのです。はじめは、小さい文字で、サインペンのようなものからはじめていって、慣れてきたら、大きな文字で筆で書くといったように少しずつ段階をつけて書いていけば、あなたもきっとレタリング文字が書けるようになります。

【紹介コーナー】

博物館紹介

瑞穂町郷土資料館



郷土資料館は、図書館の三階にある。正面の入口を入れて右手の階段を上ると、踊り場に郷土資料館掲示板があり、販売中の書籍案内がまず目に触れおなじみの多摩の博物館、東京の博物館が下げられている。三階の郷土資料館にたどり着くまでには、12月のこよみ、開館のいきさつ、瑞穂町史跡めぐり略図、見学にあたっての注意などが示され、また写真パネルも展示されていて階段を上る苦勞を忘れてしまう。趣のある看板が、来館者をいざなってもくれる。

三階の展示場ではまず署名をし、次に展示場の全体を眺めてみよう。民俗資料を主とした展示品のボリュームが、私たちにせまってくるようだ。たくさんの展示資料の中から、この瑞穂町の特徴を語ってくれるものを取上

職員紹介

小野崎 満さん

(調布市郷土博物館)



過去の人類が遺したあらゆる有形物を通じて人類の過去を研究するため、日夜、寸暇を惜しまず調査に、発掘に励む努力の人。一片の土器のかけらから墳墓、集落に至るまでありとあらゆる遺物・遺跡を発掘し、研究し、報告書をまとめるなど、緻密にしてスケールの大きい仕事に取り組んでいる。

昭和50年3月、開館してまだ日も浅い当館に迎えられて以来、地中に眠る郷土の先人達をどれほど目覚めさせたことか、当市における市民文化向上に対する貢献は計りしれないものがある。

渋谷区笹塚に居を構えること20有余年、その間、群馬県立博物館で竦腕を振っていた経験を持つ。今では当市における考古学の分野で多大の実績を誇り、中心的存在となり、博物館活動で、また、派遣先の遺跡調査会で超人的活躍に明け暮れていることは衆目の一致するところである。

少年の頃から考古学に興味を持っていたという。今後ともその活躍が多方面から期待されている。(K)

げてみると、第一に、狭山茶として名高い茶の生産用具、次に村山大島の織物用具、そして多摩だるま、東京だるまなどと呼ばれるだるまに関する用具となろうか。町の歴史をつづった展示コーナーも設けられている。

休憩室、その窓からは狭山丘陵が望め、雑木林が季節の移り変わりを伝えてくれる。この室の棚には入館者が自由に利用できる古文書、拓本、たんねんに作成された古文書の写しなどの資料が置かれている。取り出してみた一つの資料にはやごとと書かれ、開いてみると各地域に分けて一軒づつの屋号が記録されている。

階段から展示場までの案内、そして展示場の解説には多くの絵がかかっている。その絵も文字も囁託員の宮崎雄二先生のもので、館全体の雰囲気は暖かみのある郷土資料館である。(S記者)

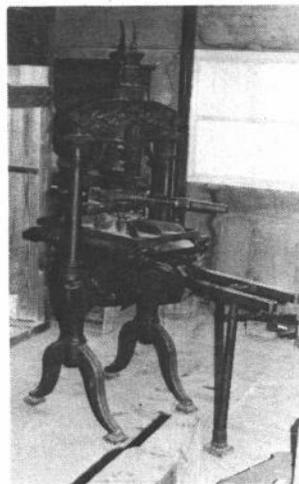
※所在地 〒190-12 西多摩郡瑞穂町石畑1,962
☎ 0425-57-5614

※交通 八高線箱根ヶ崎駅から徒歩18分
国電立川駅から箱根ヶ崎行バスで、第一小学校前または瑞穂農協前下車、徒歩8分。

※休館日 毎週月曜日。国民の祝日。毎月16日。月曜日が祝日か16日に当たった場合は翌日も休館。

新収蔵資料紹介

府中市立郷土館蔵



この印刷機は、市内の渡辺印刷所から寄贈されたものである。この印刷所の創業は明治11年で八王子の柴田印刷所と共に三多摩における印刷業の嚆矢である。

渡辺家の口伝によるとこの印刷機は、明治10年頃からあったとのことであるが調査の結果イギリスで1824年(文政7)から発売されていたアルビオン式手引印刷機と同型の、明治10年代に

製造された国産品であることが判明した。因みに我国での印刷機の製造は、明治9年に始まる。

先年、当館で『武蔵野叢誌』の複製版を刊行したがこの原本は明治16~17年にかけて、同印刷所で印刷されたものである。とすれば、これを印刷したのは間違いなくこの機械であると考えられ、まことに興味深い。いずれ武蔵野叢誌と印刷機を見合わせて、展覧に供する計画である。(朝倉)

東京都三多摩公立博物館協議会々則

制定 昭和53年5月10日

改正 昭和55年4月23日

(名称)
第1条 本会は、東京都三多摩公立博物館協議会と称する。

(事務所)
第2条 本会の事務所は、会長が所属する博物館におき、本会に係る事務を行う。

(目的)
第3条 本会は、博物館相互の連絡協調を図り、博物館事業の振興に寄与することを目的とする。

(事業)
第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 博物館相互の連絡と提携
- (2) 各館に保存管理している資料の相互貸借
- (3) 行政地区内の資料及び情報の紹介
- (4) 機関紙の発行
- (5) 職員相互の研究発表、レクリエーション
- (6) その他博物館活動に関する必要な事業

(会員)
第5条 本会の会員の種別は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 東京都多摩地区に所在する市町村立の博物館
 - (2) 準会員 前号の博物館を除く多摩地区に所在する公立及びこれに準ずる博物館で、本会に入会を申し、役員会の承認を得た博物館
 - (3) 賛助会員 前2号に定めるもののほか、本会の目的に賛同し事業を援助しようとする個人及び団体で本会に入会を申し入れ、役員会の承認を得たもの。
- 2 前項の第1号及び第2号の博物館に所属している職員は、すべて本会の事業に参加する。

(役員構成)
第6条 本会は、円滑な運営を行うために、次の役員をおく。

- (1) 会長 1名 (2) 副会長 1名 (3) 理事 若干名
- (4) 会計(会長が所属する博物館の職員) 1名
- (5) 監査 2名

(役員選出)
第7条 役員は、正会員の代表者の中から選出する。

(会長等の職務)
第8条 会長は本会を代表して会務を総理し、副会長は会長を補佐する。

2 会長に事故があったときは、副会長がその職務を代行する。

(役員任期)
第9条 役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 役員に人事異動があった場合には、当該役員の後任者がその職務を行い、その任期は前任者の残任期間とする。
(会議の種別)

第10条 本会の会議は、総会、臨時総会、役員会及び協議会とする。

2 本会の会議は、会長が招集する。
3 会議は出席すべきものの2分の1以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数の賛成によって決める。
(総会)

第11条 総会は、正会員及び準会員によって構成する。
2 定期総会は毎年1回、臨時総会は会長が必要と認めるとき開催する。

3 総会は、予算、事業計画、会則の変更、役員を選任等、本会の運営上重要と認められた事項を議決する。
(役員会)

第12条 役員会は、第6条の役員で構成する。
2 役員会は、会長が必要と認めるとき開催する。
3 役員会は、会務の処理、議案の作成その他重要な事項を審議する。

4 役員に事故があったときは、役員に所属している博物館の職員が代理として出席する。
(協議会)

第13条 協議会は、正会員及び準会員によって構成する。
2 協議会は、原則として隔月に、会員博物館を輪番制によって会場とし、開催する。
3 協議会は、次の事項を協議する。

- (1) 本会の事業の実施について協議する。
- (2) 博物館相互の情報交換
- (3) その他必要と認められた事項
(運営費)

第14条 本会の運営に要する経費は、次の収入をもってあてる。

- | | | | |
|--------|------|----|--------|
| (1) 会費 | 正会員 | 年額 | 5,000円 |
| | 準会員 | " | 3,000円 |
| | 賛助会員 | " | 応分の賛助額 |

- (2) 寄付金
- (3) その他の収入
(会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了する。

付 則

この会則は、昭和55年4月 日から施行する。

〔編集後記〕

55年度は2回発行する予定でしたが、諸々の事情により1回だけとなってしまいました。したがって〔博物館活動のお知らせ〕が6頁にも及び、また会則にも変更があり全文を掲載しました関係上、今回の第2号は10頁でお届け致します。3号からは、各博物館職員の原稿が一人でも多く載せられるよう、年2回のペースで実施してまいりたいと思います。

なお、三博協会長の狩野久光先生(調布市郷土博物館)が7月にご病気で倒れられ、冒頭のところは先生にお書きいただく予定にしておりましたが、急遽編集委員会の方でまとめさせていただきました。

一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

(Ka)

発行：東京都三多摩公立博物館協議会

〒182 調布市小島町3-26-2

調布市郷土博物館内

☎ (0424) 85-1164

編集委員：川松康人 近藤委仲

佐藤 広 横尾友一

印 刷：天沼印刷 調布市富士見町1-9-24